

## 進捗状況の概要（1 ページ以内）

## 「学内の実施体制」

・国際未来教育基幹の組織改革と次世代才能支援室の常置化に向けた調整の実施：千葉大学では、これまでの取組を活かしつつ更なる機能強化推進のために平成 30 年度に、現在 6 センターよりなる国際未来教育基幹と 6 部門よりなる高等教育研究機構を統合した 9 センター（入試センター、高大接続センター、キャリアセンター等）による新基幹体制へ移行する計画である。この統合・再編により、迅速な意思決定、円滑な事業実施等が図られ、継続かつ一貫したシステム（PDCA サイクル）を再構築することにより、学長の全学教育マネジメント機能を強化し、教育改革を加速させる。「新」国際未来教育基幹では、①スマート・ラーニングの構築、②知のプロフェッショナル育成、③「真の学ぶ力」入試の構築、の 3 つの機能強化を果たす。

## 「中心となる取組」

- ・**高校との連携体制**：コンソーシアム会議メンバーとしてすでに 37 高校が参加している。3 月には東京都から新たな加盟校を迎え、コンソーシアム全体会議を開催した。この場で提案された課題や目標について、次世代才能支援室内で討議し、平成 30 年度の開講前会議で高校側に提案する予定である。さらに次世代才能支援室は高大連携専門部会と協働し、地域の学校を広く訪問し、AP プログラムについての周知を図った。(A) 千葉県高等学校教育研究会（理科部会・数学部会・情報教育部会・地理部会・ESD 研究部会）、(B) 千葉県工業系高大連携推進委員会、(C) 工業系高校人材育成コンソーシアム千葉、(D) 高大接続カリキュラム開発連絡協議会（工学部と市立千葉高等学校との高大接続事業）に参加し、意見交換を進め、関係を強化した。大学と高校教員とでルーブリック評価研究会を立ち上げ、さまざまな視点からその開発手法についての研究が進められている。また、理科部会理科主任研究協議会（共催：理学部、工学部、先進科学センター）や SSH ネットワークとの連携により、理系学校教員の研究指導力強化の取組を行い、情報共有が進められている。
- ・**高大接続強化のための高校生学修プログラム**：平成 29 年度は 4 コース 31 講座、受講者 179 名に拡大した。平成 30 年度に向けて国際教養学部、真菌医学研究センターの講座実施準備をし、プログラム拡大の取組を実施した。
- ・**国際協働による高大接続の発展**：科学（一部、文化も含む）に関する英語発表への参加、また科学実験等を協働して行うアクティブ・ラーニングプログラムなどを開発し、実践した。国際研究発表会には 229 人の高校生が参加した。

## 「取組の成果」

・A0 等入試へのスキップアッププログラムの活用：本プロジェクトは高大接続としての改革であり、入試改革ではない。しかし、入試との連動は重要と考えている。全学体制で新型入試への移行を準備しており、多様な才能を確保するための方策を準備している。現在、教育学部 A0 入試への活用がすでに行われている。また、園芸学部入試への活用を 2 学科に拡大した。さらに先進科学プログラムの飛び入学への活用も発表準備中である。

## 「補助期間終了後の継続発展に向けた取組」

・自立化の方策：大学の組織改革に伴う新体制移行での実施母体の明確化の準備を進めている。また、高大連携専門部会との協働体制の緊密化を進めている。

## 「学内外への波及効果」

・広報活動：AP プログラム紹介パンフレット配布、ホームページによる情報発信、現代産業科学館展示会を行った。さらに教育系学会で AP 活動での開発について成果発表を行った。この結果、多くの高校教員や関係者の関心を引き、千葉県のみならず東京都からの高校の参加が増えた。